

いつもお世話になっております。

今月分の請求書を送付いたしますので、何卒御査収のほどよろしくお願い申し上げます。

いつもありがとうございます。

金木犀の香りに足を止め、花を探す今日この頃です。たいてい通り過ぎた後、3mほど離れた場所に咲いています。すぐそばより離れたほうが強く香るのは何故だろう、と毎年不思議に思います。

先日、京都の「龍谷ミュージアム」に「アンコール・ワットへの道 ～ほとけたちと神々のほほえみ～」を観にいきました。

一年中、観光客で大賑わいのJR京都駅から徒歩15分ほどの、西本願寺の向かいにある龍谷ミュージアムは、とても静かな美術館でまさに穴場です。今回は、アンコール王朝時代のカンボジアの石像彫刻を中心に東南アジアの仏教・ヒンドゥー教の仏像や神々の像が沢山展示されていました。異国の宗教美術品をこうして一堂に集めて見るのができるなんて贅沢な企画です。

展示室に入ると、ヒンドゥーの神々が年代順に並べられていました。年代を追うごとに、石像の装飾が華美になったり、また時代が変わるとシンプルになっていき、装飾が省略されたりしていました。

身体の形状も、力強さを強調した時代もあれば、王朝が変わりと安泰であった頃には、肉体の優美さを表していたり、片方の膝をかすかに曲げて、動きを表現したりしていて、昔も今と同じように社会の潮流にあわせた流行の変遷があったのだなあと思いました。

日本の仏像は大抵ふくよかな姿をしています。ヒンドゥーの神々は男神も女神もスタイル抜群で、顔の造作もとても美しく、目はもちろん唇の端まで細かく表現されていて、横顔も完璧な美しさでした。

特に、展示室に入ってすぐの6～7世紀のヴィシュヌ像は、衣服や装飾品はシンプルですが顔も姿もとても美しく、目に焼き付くほど眺めて帰りました。

後半は石仏もたくさん展示していました。中でも「ロケーシュバラ」という仏像が特に素敵で、上半身に小さな仏が無数にほられているのですが、説明によると「一つひとつの毛孔に無数の宇宙がひろがっている」ことを表しているそうです！意味も素敵すぎます。

日本の仏教にも「サラスバティ=弁財天」「ラクシュミ=吉祥天」などヒンドゥーの神々が取り入れられています。アンコールでも時の国王の帰依によって、仏教が栄えたりヒンドゥー教が栄えたり、時には対立することもあったそうですが、大体においては共存していたそうです。

現在、中東では過激派組織による遺跡の破壊がつづいています。例え無事だとしても、遺跡を観に行く可能性などほぼ無いのかもしれませんが、暴虐な行為によって壊されるのはとても残念で悲しいです。そんなことを思うと今回の展示を見られることを、尚更ありがたく思いました。

お天気の良い昼間はまだ暑いほどですが、寒がりの私はすでにヒートテックを着こんでいます。

みなさまも、気温の変化にはお気をつけくださいませ。
美味しく、たのしい秋を満喫できますように。



西本願寺参道を少し歩くと・・・



オリエンタルな佇まいの
素敵なお建物。「本願寺伝道院」

株式会社ユニコーン
大阪市中央区大手通 1-1-2
TEL.06-6943-4560
FAX.06-6920-5311